

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2173回★ サイクル登山 海南の山	5月13日(水) 集合場所, 時間は 参加者と相談	三橋 勉 (581-3562)	阪和自動車道-海南IC- I 明神山- II 熊尾寺山- III 念仏岩- IV 鏡石山
マイカーで行きますので, 必ず事前に担当者に連絡してください。 当日が雨天の場合は, 翌日にします。			
第2174回★ 春のハイキング 音羽山	5月24日(日) 9:00 京阪大津線大谷駅集合	井戸 澄夫 (内 810) (外 822-9181)	大谷駅-(東海自然歩道)- 音羽山(昼食)-千頭岳- 石山
音羽山山頂でソーメンをします。			
第2175回★★ 十二支の山 虎ヶ峰	5月28日(木) ~30日(土) 28日 20:00 竹田駅西口出発	大倉寛治郎 (内 4311) (外 642-4332)	竹田駅西口-名神南IC- 吉備IC-(R 424, 425) -保の平-虎ヶ峰峠-虎ヶ 峰
マイカーで行きますので, 必ず事前に担当者に連絡してください。 テント泊です。食事は各人で用意願います。			
今月の集会 日時 5月8日(金) 18:30 場所 厚生会館 4F 大教室		企画運営委員会 日時 5月21日(木) 18:30 場所 厚生会館 4F 大教室	



桜の花は例年のごとくはかなく散ったが、ちょうど週末は見頃で好天だったため、京都の町は観光客であふれかえり、市バス・地下鉄の営業成績も好調であった。これから山は花と新緑の季節となり、近郊のハイキングが楽しい。

4月の異動では大幅な機構改革で、本部制が廃止されて、局長一次長－4部（企画総務、自動車、高速鉄道、施設）1室（建設）となった。国の財政が苦しく、市全体の会計も厳しい中、交通局の経営は益々困難になっている。市民の交通需要を満たしつつ、より効果的な経営を目指す努力が求められている。地下鉄の六地蔵延伸もいよいよ5月連休明けにも免許が下りそうである。地元住民への説明会も間もなく開催される予定である。

3月末にスキー登山でOB部員のW氏が足を骨折した。斜面をトラバース中に滑落し、約10m下方の林道に転落したのである。麓のスキー場まで近かったので救助を求めたが、スノーモービルとソリの走行に手間どり、事故発生から救急車で病院へ収容するまで7時間もかかった。天候は快晴で暖く、救助作業も容易な場所でこれだけ時間がかかったのであるから、もしこれがもっと奥深い山の中で、天候の悪い時に発生していたとしたらと考えるとゾッとする。日頃から遭難した場合の対応の方法について学習することと、山行中は無線機・医薬品・細引きなど最低限の緊急資材を携帯する必要性を痛感した。W氏は日山協の山岳共済に加入していたので、救助に要した費用は全額補償してもらえそうである。

3月22日には、OB部員の坂井久光氏が1,500山目の登頂を、十津川の天上山で達成した。一昨年の秋に全国の一等三角点（標高500m以上）548座を完全登頂されたが、それにひき続いての快挙である。坂井氏の約50年にわたる山岳活動の成果であり、心からお祝いしたい。坂井氏は73歳であるが、まだまだ元気で、これからもますます活躍されることと思う。京都市交通局山岳部には、85歳の伊藤潤治氏をはじめ、活発に活動されておられるOB部員が多く、頼もしい限りである。

(H.10.4.19. 記. S.I.)

【第2164回例会】

天 上 山 二等三角点 817m

坂 井 久 光

平成8年8月比後岳で一等三角点を終った時点で1,426座だったのでその後1,500山になるのは判っていたが、その山は何処にしようかと迷っていたが、二等三角点（十津川村）で天上山があるのを知り、良い名の山なのでこれにしようと思った。部員諸君に話したら例会にした方がよいとの声で、久しぶり例会を担当し、3月21日壬生集合で十津川温泉松の屋で一泊、翌22日重里から登頂。

井戸部長も早朝から車で現地へ合流され、三橋さん他7人の宿泊組と、京都熊笹会の山口さん（一等三角点研究会員）の参加を得て山路を登り、山頂三角点に山彦グループ玉岡さんの贈物原酒太平洋が供えてあって一同びっくり。私の600山目に英彦山で供えられたことがありこれが二度目の心暖まる祝福の印であった。参加の皆様から祝福の言葉を頂き小生の喜び感激の至りでした。今後共元気な限り無理せず一山づつ登り続けるつもりです。下山後玉置山へ登り、一等三角点へ登り小森本部長の初登山を祝い下山。私は昭和34年頃北海道の新十津川町会議員と最初に来訪、平成5年の松浦氏捜査の際も来山し、昨年秋も玉置山から大森山へ縦走し来山5回目であった。今回は駐車場からの新登山路を通して登頂。一同楽しく昼食休憩後往路下山した。参加の皆様から心から感謝の意を表明します。

天 上 山

三 橋 勉

お昼すぎに6名が車2台に分乗、もう1台坂井氏の友人の山口氏の車と計3台が壬生を出発する。大久保バイパスから京奈道路を走り、田原本で堀田君と合流し近くのジャスコで買い物をして檀原バイパスから169号線を南下し大淀町で右折、下市口で吉野川を渡って、ななめ右に約1キロ進んだ十字路で直進すると、下って行くのでこれはおかしいとバックして地元の人に道を聞き、県道20号線を西吉野村で国道168号線に出て、ひたすら十津川温泉に向けて走り、途中狭い道もあって夕方になったが、民宿「松の家」に到着した。坂井氏の友人はどこかでビバークするというので、明日早朝ここで会うよう約束し別れる。

ゆっくり温泉に入って明日の鋭気を養った。明日やって来る井戸さんに登山口に早めに来るよ

う電話した。

翌朝6時半に朝食7時出発する。下湯温泉へ行く道と別れて右のトンネルを越えたところで後続車を待っていると、井戸さんの車と合流した。左側の西川沿いに5分ほど行った所で橋を渡り登山口を聞いたが解らず、本道に戻って小学校の横を通って橋を渡り、上部へ行く行き止まりとなり、その民家で登山口を尋ねると、家の裏から登る道があると親切に教えていただき、車もその前に置かせていただく。

7時40分登山準備を終えた9名が、その家の横手から前の尾根に向かって登って行くと、なるほど1m程の小道があり藪コギをしなくて助かった。

今日は天気もよく、尾根に登るまではジグザグ道であったが、やがてゆっくりした上り道となり、落ち葉を踏みしめて快調に進む。去年の秋の薊岳以来、久しぶりに若い人たちをまじえたメンバーである。小一時間程登った所で分岐点があり、地図で確認すると左はトラバース道なので、右を登って行く（このとき他の先頭集団は、左へ行った）。

なおも登って行くと、だんだん急な登りとなり道も怪しくなってきた。それでも高い方へどんどん登って行くと、左下の方から呼びかける声が聞こえたので、応答する。そのうち傾斜もゆるくなり笹原の広場に出て来たので、なおも高いところを目指して行くと二等三角点の上にお神酒が備えてあり、新宮山彦グループの玉置氏らが前日に登って来られたことがわかった。

いつもながらのおもてなしに感謝感激しているところへ、後続者たちも到着した。付近は大きな林間の真ん中にあり、展望は望めなかった。

全員そろった所で、坂井先輩の1,500山登頂を記念して万歳三唱しビールで乾杯する。まだ9時半なので昼食には早すぎるので、もう1山登ることとし、早々に下山することになったが、急な下りとなり登って来た道を見失い、坂井先輩に叱られながら登り返して軌道修正し尾根道を歩くとハッキリした道が続いているのでどんどん下って行くと右と左の道に分かれているところに出た。どうもさっきから登って来た道と違うなあと思いながら、右手の尾根と間違えて降りているらしいと気づいたが後の祭り。

右の道をなおも下って行くと、里が見えて来た。玉垣内に降りたらしい。車を取りに行くのに30分かかった。車を置かせて貰ったお宅にお礼を言って、坂井氏の友人とも別れて、我々は玉置山に向かって走る。

約1時間で玉置山の駐車場に到着し、玉置神社に参拝し元の駐車場から、尾根道を山頂に向かい一等三角点で1時過ぎになったが、昼食をいただく。さすがに展望がよく、子ノ泊山や熊野の山々が見えた。

帰りに300円也の熱い熱い十津川温泉に入ってから、8時半京都に帰って来た。

【参加者】 坂井, 井戸, 小森, 森本, 竹田, 清水, 堀田, 三橋他1名

【コースタイム】

重里 7:30 ~ 40 … 分岐 8:30 … 二等三角点天上山 9:20 ~ 45 … 玉垣内 10:55 … 車止 11:25 →

玉置山駐車場 12:10 … 神社 12:30 … 駐車場 12:52 … 一等三角点 13:04 ~ 35 … 駐車場 13:50
→ 十津川温泉 14:00 ~ 15:00 → 京都 20:30

【第 2 1 6 5 回例会】

志賀高原スキーツアー

山 元 誠 一

2月の野伏ヶ岳・和田山牧場での山スキーに続き、3月は、志賀高原スキーツアーに参加させてもらった。

3月28日早朝6時に井戸さん、田村さん、私の3名で壬生を出発、途中山科で三橋さんと渡辺さんが加わり、総勢5名で快晴の空の下、名神から中央高速へ。

晴れ上がった空の下、雪を抱いた南アルプスの山並みが右手に、左手間近かには、中央アルプスが輝いていた。長野自動車道から上信越自動車道に入ると独立峰の飯綱山、妙高山のどっしりしたその姿が目前に現れた。中野インターチェンジで高速を降り、スーパーマーケットで買い出しをし、志賀高原へ向かう。昼食は、サンパレースキー場のレストハウスで信州名物「そば」を食べる。十数年前に滑った斜面を横目で見ながら。しかしながら、滑っている人が意外と少なかったので不思議に思う。

昼食後、横手山のスキー場へ。身支度を整え、13時30分にスキー場を出発。2基のリフトを乗り継いで、一気に横手山頂へ。麓は、春の暖かさが感じられたのに、さすがに標高2,400mの山頂では、木々の樹氷が冬を演出してくれていた。横手山頂から渋峠へは、ゲレンデを滑って降り、そこからは、雪に埋もれ冬季閉鎖された志賀草津道路をたどって山田峠へと向かう。

春の雪を踏みしめて、そして、途中からは、ゆるい下りを快適に滑降する。左手には草津の温泉街が見える。我々だけしかない広々とした雪原を滑る。山田峠は、万座温泉スキー場の少し手前の峠で、峠には、立派な避難小屋がある。峠の少し上部では除雪作業が行われており、除雪車の音と資材運搬のためのヘリコプターの音が雪原の静寂を時折妨げる。避難小屋の付近は、風が強く、あたりの木々にはえびの尾っぽが見られた。

小屋で休息したのち再び渋峠まで戻ることとなる。元きた道に戻るわけだが、今度は上りである。シールを張り付けて、スキーを滑らせる。心地よい汗が身体からにじむ。それでも、夕日に輝く美しい雪山を目の前に見ながらの上りで、あっという間に渋峠へ到着。最終のリフトに何とか乗り込み、横手山頂へ。ここからは、楽々と思っていたら、大違い。がりがりの凍った狭い林道を滑ることとなる。それでも何とか、ゲレンデ下の車の所へ17時すぎに戻ることができた。

横手スキー場の駐車場横にテントを張り今宵の宿とする。今宵のメインメニューは、「ブタしゃ

ぶ」食べて、飲んで、心地よい疲れが身を包む頃、シュラフの中にもぐり込む。

翌29日6時に起床。本日も好天である。朝食をとり、テントを整理して熊ノ湯スキー場へ。田村さんに山田牧場スキー場まで車の回送をお願いし、我々4名は、第2リフトに乗り、標高1,930m地点へ向かう。目の前に今日登る笠ヶ岳の鋭峰がせまる。凍てついた雪の尾根道を恐る恐る滑り降りる。尾根道を降りたところは、広々として樹林帯となりゆったりと滑れる。少し滑った窪地になった所からは今度は登りとなる。しかし、シールを付けずに登る。傾斜がきつくなってきたので、スキーを外してかついで登ることに。目の前に笠ヶ岳の頂きを仰ぎ背後に志賀高原のスキー場が望める所で小休息をとる。春霞ではあるが、志賀高原のスキー場が目の前に広がる。

休息後、再び、先行者のトレースをたどって笠ヶ岳頂上直下の休憩所を目指す。途中で下の方に林道が見えたので、林道に降りることとする。その時である。私の目の前で、渡辺さんが転倒されて、急な斜面を20mぐらい滑り落ちてしまわれたのは。太股を強打されとても動ける状態ではないとのことであり、救援を頼むこととなる(10時)。

最初、三橋さんが、志賀高原側へ救援を求めに行かれたものの、途中からスノーモービルが入ることができず、今度は、井戸さんが山田牧場スキー場に救援を求めに行かれた。事故が発生してから4時間以上を経過した14時00分に救援隊がスノーモービルとそりで到着。手際よく、そりに渡辺さんを移動。そりをモービルで牽引して山田牧場スキー場へ向かう。しかしながら、春のゆるんだ雪のため、モービルが雪の中に落ち込んだりし、山田温泉牧場に到着したのは16時30分前であった。到着とはほぼ同時に救急車が到着。須坂市にある県立病院での診断の結果、骨折とのことであり、緊急入院されることとなった。

その後のご家族の方からの連絡では、4月11日に京都の病院に転院されるとのことであった。

今回の事故では、山田牧場スキー場の救援隊の方々、笠ヶ岳スキーツアー中の2人の方に大変お世話をお掛けしました。本当に有り難うございました。

【参加者】 三橋 勉、 渡辺智生、 井戸澄夫、 田村正弘、 山元誠一

【コースタイム】

3/28(土)

13:50 横手山リフトのりば(リフト) … 14:00 横手山頂(2,300m)(スキー) … 14:10 渋峠 …
14:30 芳ヶ平展望所(標高2,172m)(スキー) … 15:00 山田峠(休) … 15:20 山田峠(発) …
16:30 渋峠 … 17:00 横手山リフト下

3/29(日)

8:15 熊ノ湯リフトのりば … 8:30 第2リフト上(1,930m) … 9:00 休憩 … 10:00 笠越林道
(渡辺氏負傷) … 14:00 救助隊到着 … 16:30 山田牧場スキー場着 … 17:00 須坂病院

点を巡礼（その2）

伊藤潤治

1月10日（土）曇り

千代田温泉は一泊二食を¥3,000で泊めてくれるありがたい宿である。

その宿を6時10分にたち、朝食は山陽自動車道宮島サービスエリアで、体の温まる食という賢明策をとった。これからは山口県で土地不案内の山地になるが、これからの計画は下松市在住氏のご友情の資料によって作成したものである。

玖珂インターから県道11号に出て周東町相生別西に行くと、ちゃんと高照寺山登山口の標識があり、あとはぐんぐんのぼって岩国市境の峠を右に見て、高度感のある道を経て山頂着。

辺りは巨大な電波施設で占められていたが今西先生が1979年10月8日にお登りになっている高照寺山I 645m（岩国）の標石は、その施設と対峙する位置の茅と雑木の茂る小さい隆起にあって、小さくとも侵されていない天然・自然のままな世界であるのと、久しぶりの一等三角点であったから感動のあまり大きな歓声をあげてしまった。

標石の傍らにすてきな笑顔でいる布袋像が置かれて、人待ち顔でもあったので記念写真にお入りいただきてきた。高照寺山の山名の由来は分からないが、1898年頃は長宝山と呼ばれていたようである。高照寺山に次いでの見参は、風変わりな山名をもつ錢壺山である。

車は運転、ナビともによろしく、由宇町に入りJR由宇駅前を過ぎると、待ちかねたように「錢壺山公園入口」標があって、実にすんなり駆け込めた。大畑付近から立派な新道に変わって進むほどに、運動施設や研修センターや大將軍への車道までや、植樹のサクラ・カエデが並び、まことにあっぱれなる公園が造られていた。徒歩約50m、吹きざらしの最高所に錢壺山二等三角点はあった。曇天ながら高照寺山がのぞめたが、山よりもここは海の景色の方が秀抜である。大きい海面と航行している小さい船、そしてかわいい小島の点在。その眺めは壮大ですばらしかった。

錢壺山には首をすげ直した小さい石の地蔵尊が祠ってあった。外に錢壺山御堂跡と碑があり、『玖珂郡志』には、「是レ堂舎有之タル跡ニテ 破壊ノ後 沖ノ船ヨリ見レバ火燃上ルコト度々ナリケレバ 船人怪シミテ此峰ニ上リ見レドモ格別変リタルコトナキ故 此所ヲ掘ケレバ錢壺ヲ掘出セリ」の記述がある。

登頂9時35分、展望その他で10時5分まで滞頂。次は文珠山をお勧めいただいたが、三角点は四等より二等に登りたいと勝手に申し上げて、その思いがかのう山（嘉納山）。

嘉納山は終生の課題としている『日本山嶽志』にあるのは、欣快であるのだが、「別称嶽山、周防国大島郡屋代島（別称大島）ノ西方ニアリ、久賀村字東久賀ナル能莊ヨリ二十三町ニシテ其山頂ニ達ス。標高二千三百四十六尺」で、そっ気ない。

下松氏のご友情は、「屋代島の最高峰で山体は、大島郡の大島・久賀・橋の三町にまたがり、

それぞれの町境線と一致した方向に尾根が張り出し、東に高山、北西に文珠山、南に源明山の支峰がある。山名の由来は地元の旧称という観音山が転訛したという説、山頂の城に住み敵の下意討ちで命を断った嘉納姫に由来するという説、車では山頂直下の海上保安庁嘉納山送信所まで、久賀から一車線の車道が通じている。」その他詳細で補ってなお余りある資料である。

屋代島に渡って間もなく文珠山登山口標があり、やがて広大な風景の海岸線で久賀町に入ったのだが、「延命の滝」はあったが嘉納山の道しるべがなく、読図をやめて町役場を煩わした。

嘉納山道と延命の滝は広域農道を越るまで同じ道であった。追々と道幅が心細くなる。そして、不安がもう一つ海上保安庁にあった。1994年きのえいぬ歳1月15日、羽金山Ⅱ900m（浜崎）に登って、その海上保安庁から頑固に立ち入りを拒否されてきたためである。

その海上保安庁に行きつくと無人であった。それはよかったが、そこに「高山へ40分標」の立っていたことから、到達地点を間違えたことと錯覚したことは、情けなかった。

きのうから目まぐるしく駆け回るので、ひょっとして巡礼疲れが出ていたのかも。横木の長い階段を上がると、砲台あと、源明寺分岐、そして晴れやかな平面の頂き、そこにも何かの跡がある。その頂きに数名の中老年男女が座を占めて、昼餐会を楽しんでいた。この人この人たちは文珠山経由で登り、往路を下山することだったが尋ねもしないのに三角点（下松氏資料の如く）は、指差してあちらの道端に二等があると教えてくれた。

嘉納山標高684.9m二等三角点（久賀・柳井）は、下って少し上った展望のなさそうな稜線にあった。せっかく選び、立入拒否もなく、めでたく念願が果たせたというのに、なぜか、きのうからのような大感激にはひたれなかった。いじらしくて心に残ったことは、アオキの実を数個から十数個が詰所に行儀よくきちんと並べてあった。鮮やかなので人による故なき戯れだと見とれたが、実は小鳥のなしたお遊び、と聞かされて、へえー。

このあとその日の納め山である皇座山に向かった。その途中で琴石山Ⅱ546mに登りたい山として私たちの目に映った。

皇座山も『日本山嶽志』に、「大座（ダイザ）山、周防国熊毛郡ノ西方ニアリ、室積村大津ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス。標高千七百三十八尺」がある。ここでも下松氏資料から要点を抜粋させていただく「……。皇座山は死火山である。いつの時代に噴火したか不明である。噴火口は常高盤（…三角点のある地点…）および俗称『蛇の寝た跡』といわれるところである。その常高盤（…最高峰526.7m）に残っている石畳は神聖な古代の神域と見られている。位置は熊毛郡上関町と柳井市との境界で、室津半島の先端にある信仰の山で、古くは神山とも呼ばれていた。山頂周辺には白雲稲荷神社を始めとする歴史的な遺跡が多い。」

以上のように皇座山はなかなか興味深く魅力的である。

屋代島から約30分で上関町に着くと、当然の如く「皇座山登山口」や「行程4.5km」の案内標があった。壮快に駆け上がり赤い鳥居を右に見て、枯れ芝草群を押し分けて進み登れば“あな、うれし”そこに室津山基準点電計No.253。山名星座山526.7m一等本点の標石があった。「1,500山のしおり」によれば先生は、1978年11月5日に登頂になっていて、その秋は、さぞ大酒盛りが催されたことだろう。私たちも「ロングアゴー」を歌って華やき相当な歓をつくした。

露岩があるので上がって展望したが、曇天のため佳景はなかった。しかしこれで前座に予定したすべてを完登できてめでたいと、大満悦で十二支会に参加すべく、かんぼの宿「光」への道を急いだのであった。

その後、古代の神域と見られる石畳も蛇の寝た跡にも気づかなかったことや、白雲稲荷を無視したことなど、うかつであったと後悔している。

註. 常高盤の語意不詳。

例 会 報 告

例会 No.	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	備 考
2163	雪と戯れる 御嶽山	3月14日 ～16日		山岡 昭弘		都合により中止しました。
2164	天上山	3月21日 ～22日		坂井 久光 井戸 澄夫 三橋 勉	小森, 森本, 竹田, 清水, 堀田, 他1	(別稿詳報)
2165	スキーツアー 志賀高原	3月28日 ～29日		井戸 澄夫	三橋, 渡辺, 田村, 山元	(別稿詳報)
2166	大和葛城山	4月10日		三橋 勉		都合により中止しました。

部 員 動 静

目 的 地	月 日	天 候	参 加 者	記 事
伊勢の山々				
古光山 953m	3月28日	晴	坂井 久光	} 2度目 春が越の西, 三軒屋より往路
学能堂山 1,022m	28日	"	坂井 久光	
春日峰 982m	29日	"	坂井 久光	
髻 岳 778m	4月4日	"	坂井 久光	メナードゴルフ場より
槇ノ尻山 765m	4日	"	坂井 久光	古川より
飯坂山 611m	4日	"	坂井 久光	伊勢街道峠より
高所山 772m	4日	"	坂井 久光	漆より
高尾奥山 792m	5日	"	坂井 久光	上長瀬林道より
沼ノ峰 783m	5日	"	坂井 久光	西谷林道より
袴腰山 521m	5日	"	坂井 久光	上笠間より

雑 報

△△△ 4月の集会

日 時 4月10日(金) 18:40~20:00

場 所 厚生会館 4階 大教室

参 加 者 (本局) 山岡 (高速) 大倉 (梅津) 吉田

(市役所) 竹田 (OB) 伊藤, 坂井, 三橋, 岡田 以上8名

内 容 例会報告ほか

△△△ 3月の企画運営委員会

日 時 3月23日(月) 18:30~

場 所 厚生会館 4F 大教室

出 席 者 井戸, 大倉, 山元

内 容 例会予定, 山岳部総会について, 岳連関係報告ほか

△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

4月号 京都山岳, 北山, 趣味の登山, 山友, 青嶺, 近畿山行

△△△ 訂 正

部報4月号(No.546)において、以下のような誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

正

誤

P. 9 上から5行目 ~伊藤氏の発声により~ ~近藤氏の発声により~

家庭用品 } 総合卸商社
衛生用品 }

日華商事株式会社

本店 京都市南区上鳥羽大物町13番地
☎ 601-8121 電話 (075) 672-6101(代)
FAX (075) 661-7332

八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町24番地の4
TEL (075) 571-1108

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

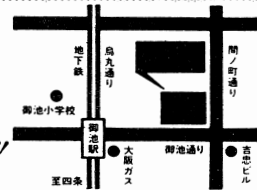
京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)

西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集會!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



株式会社 **ロッジ**
LODGE

営業時間 AM10:00~PM9:00 (年中無休)
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
TEL. 075 (222) 0363 FAX. 075 (223) 5256

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンプ・クライミング
アウトドアウェア・US製出品
ポータブル用品

Mountain

〒604-0931 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(268)-0548
営業時間 AM10:00-PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

●新刊紹介 北斗書房

「留学生からのメッセージ」
大橋 敏子

長年、外国人留学生のお世話をされて来た著者が、京都大学に留学した世界各国からの学生からのメッセージを中心として、留学生の抱える諸問題にスポットライトを当てたものである。国際化が叫ばれている現在、学生の街といわれている一般の京都人が読んでもいろいろな教示を受けることが多い。

お問い合わせ

(株)北斗プリント社

〇七五―七九一―六二二五



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 小林地図専門店

〒600-8150 京都市下京区烏丸通上珠数屋町東入る(3軒目北側)
☎(075) 351-6598(代)

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏専用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

平成10年5月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部